

車線拡幅

安全・安心の更なる向上を目指して

暫定2車線区間の課題

速度低下・渋滞

4車線区間と比較すると規制速度が低く低速車両の追越ができなため、後続車両を含め全体的に速度が低下し、渋滞が発生しやすくなっています。

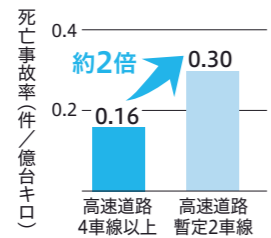


阪和道 印南IC～みなべIC

→ 時間信頼性確保

正面衝突等による重大事故

反対車線と完全に分離する構造になっておらず、ひとたび事故が発生すると、正面衝突に発展する等により、死亡事故等の重大事故となるおそれが4車線区間と比較すると高くなっています。



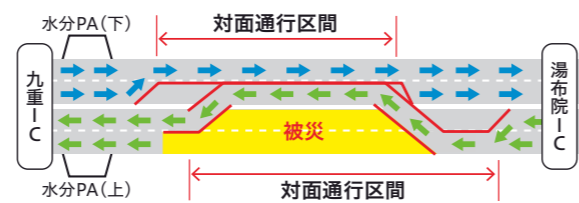
事故防止の緊急対策として実施している区画柵の設置については、P.22へ

→ 事故防止

通行止めの発生や長期化

- ・事故や積雪等による立ち往生発生時に追越ができず通行止めとなります。
- ・大規模な工事を実施する際に、長期間の通行止めが必要となります。
- ・災害発生時における全面通行止めの解除に時間がかかります。

→ ネットワークの代替性確保

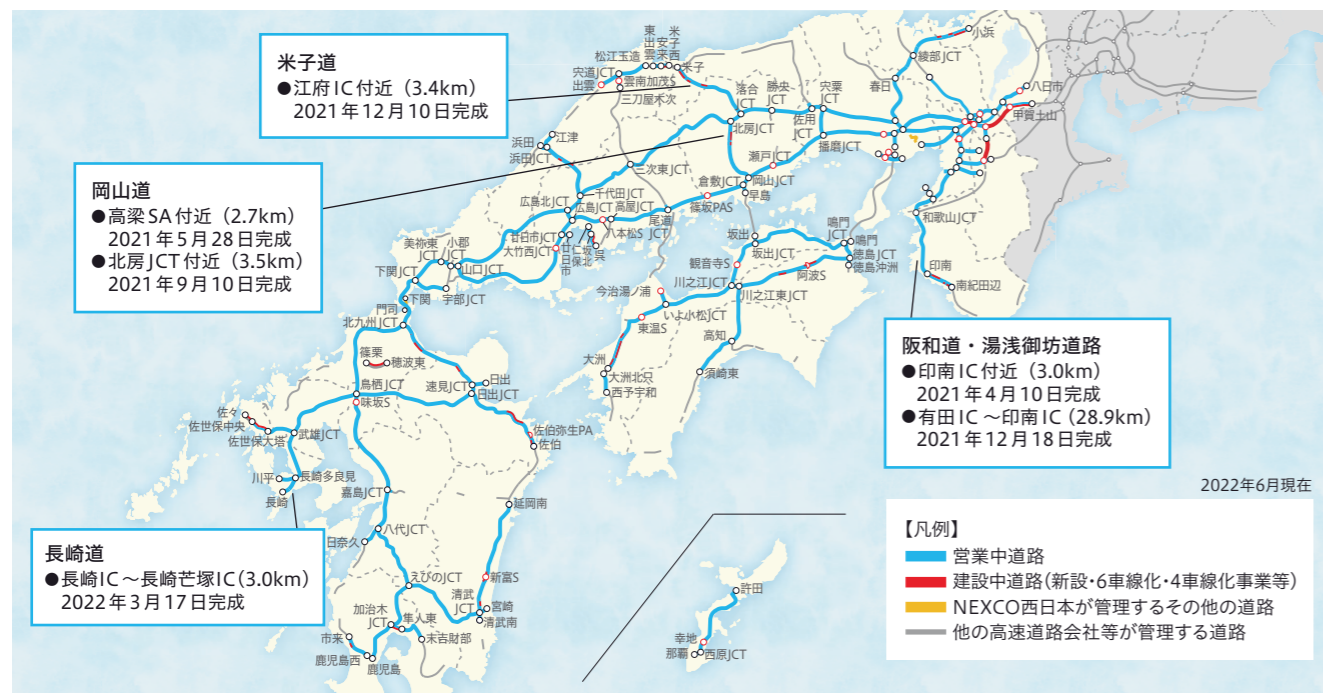


「令和2年7月豪雨」の被災事例

4車線区間では、上下線のいずれかが被災しても残る車線を対面通行とすることで、早期に交通機能を確認し、復旧支援や緊急物資運搬等に大きく貢献できます。

課題への対応 —4車線化—

暫定2車線区間における課題を踏まえ、当社としては、お客さまの安全・安心の確保、大規模災害時の早期復旧の支援等の観点からも、暫定2車線区間の解消を重要な施策と認識し、計画的な4車線化を推進しています。

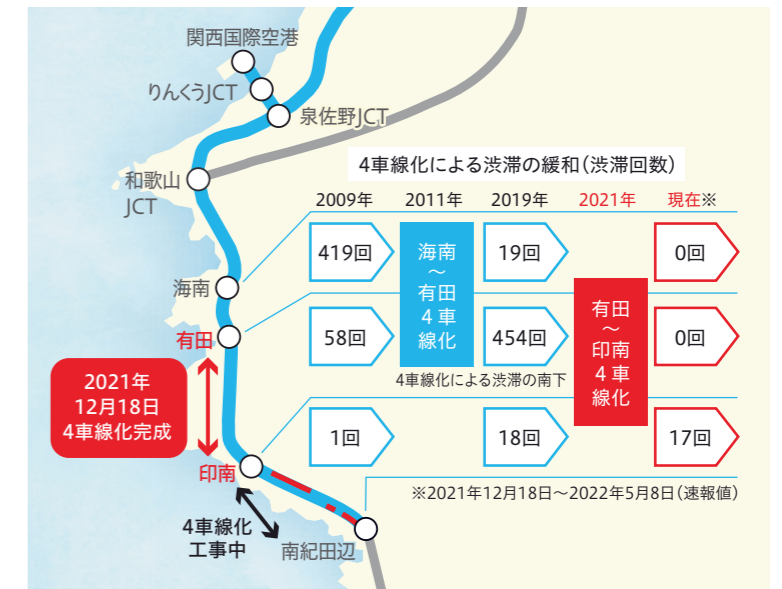


和歌山 ↔ 大阪が うーんと便利に

阪和道及び湯浅御坊道路 有田IC～印南IC 4車線化の完成

阪和道及び湯浅御坊道路は、近畿南部地区と京阪神及び中京地区を結ぶ交通輸送の大動脈であり、関西国際空港へのアクセス道路としても重要な役割を担っています。また、和歌山県南部における交通渋滞の緩和や利便性の向上を図り、沿線地区の発展に寄与するとともに、地震、津波等の災害時の緊急輸送路「命の道」としても、使命を果たしています。

2021年12月18日、そんな阪和道・湯浅御坊道路において、有田IC～印南IC間の4車線化が完成しました。定時性・信頼性の向上、安全・安心の確保、災害時の早期復旧等への貢献について、更なる向上が期待されています。



現場見学会を通して地域の教育に貢献

当社グループは、「人とモノの流れを支える」という高速道路の役割を果たすだけでなく、建設現場や料金所等を地域の教育の場として提供する活動を続けています。

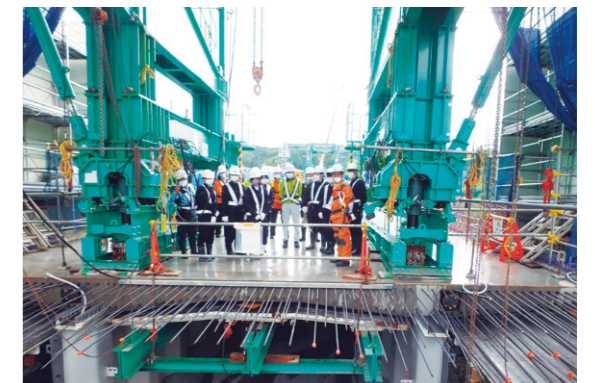


Voice



米子道の4車線化工事では、地域の小学校や高等専門学校と連携した現場見学会を開催しました。担当した小学校との現場見学会を通じて、高速道路が地域社会と密接な関わりを持つ存在であることを再確認いたしました。参加していただいた小学生及び地域の方々に、高速道路について少しでも知ってもらえる機会となれば幸いです。

中国支社 米子高速道路事務所 蒜山江府工事区 酒井 大輔



社会の変化とともに高速道路も、より強く

新名神高速道路の6車線化

1. 物流効率化

新名神の大型車交通量は供用後、増加傾向にあり、ダブル連結トラックやトラック隊列走行など、次世代の物流システムの実現を見据えた対応が必要になります。6車線化により、走行快適性に加え、低速度の大型車と高速度の普通車の混在を減らすことで安全に走行できます。また、物流の効率化に寄与し生産性向上が期待されます。

2. 災害時における代替性の強化

名神とのダブルネットワークの安定性向上により、ネットワークの代替性が強化されます。降雪や地震等の災害発生時に名神が通行止めとなった場合でも、新名神が代替路として機能し、名神軸の安定的な交通確保に寄与します。

3. 名神高速道路のリニューアルプロジェクト時における渋滞の抑制

今後本格化する名神のリニューアル工事実施時に、名神からの迂回車両により新名神の交通量が増加した場合においても、渋滞の発生を抑制し、名神軸の円滑な交通確保に寄与します。

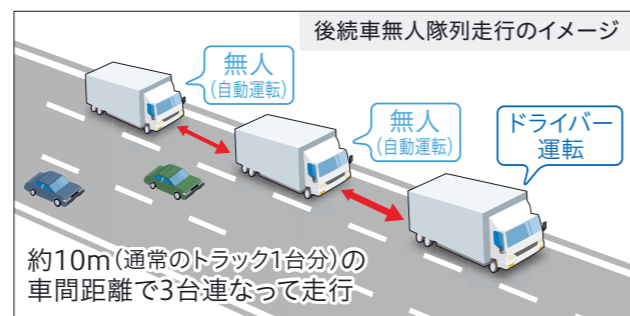


2022年3月29日から、甲賀土山IC～大津JCTの6車線化工事の一部区間において、3車線運用を開始しています。

後続車無人隊列走行の実現を見据えた整備

物流業界では、近年、トラックドライバー不足が深刻化しています。労働生産性の向上や働き方改革の実現など、短時間で長距離の輸送を可能とし、輸送効率の向上に寄与する高速道路の重要性が高まっています。

現在、後続車無人隊列走行システム(東京～大阪間)の商業化が進められており、実現に向けた安全で円滑な走行区間の確保などの観点から、新名神高速道路の6車線化等を進めています。



Voice

新名神高速道路 大津JCT (仮称)東側約2.9km(橋梁延長1.4km、土工延長1.5km)の建設工事の施工管理業務を担当しています。騒音・振動や濁水等による生活環境への影響や、飛び石や土埃による開通済み区間への影響、夜間工事に伴う規制での渋滞発生等によるお客さまへの影響に最大限注意し、安全第一で施工を進めています。地域の方からは「開通が楽しみ」と温かいお声をいただくこともあり、大変嬉しく思うとともにやりがいも感じています。受注者の皆さまとも日々協働し、工事中から地域の皆さまに愛される道路となるよう業務に取り組んでいます。

西日本高速道路エンジニアリング関西(株)
滋賀事務所 新名神大津事務所駐在 落合 祐



自然環境に配慮した道づくり

エコロードの推進

当社が推進している『エコロード』とは、「自然環境に配慮した道づくり」のことであり、日本道路公団設立当初より、のり面の緑化や既存林の保全など、自然環境の保全に向けた取り組みを行っています。

『エコロード』の取り組みの一つとして、自然環境が豊かな地域で道路を建設する場合は、その地域に自生する樹木の種子を採取して育てた「地域性苗木」を高速道路ののり面に植樹しています。地域性苗木は、地域の遺伝子を持つことから、「遺伝子の保全・種の保全・生態系の保全」という生物多様性の保全に寄与できると考えています。

2021年度末までに約16万本の地域性苗木を植栽しており、今後も、建設工事が進む新名神高速道路などで積極的に取り組んでいきます。

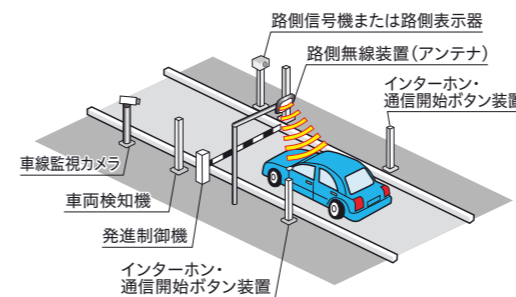


のり面における地域性苗木の成長の様子(新名神高速道路信楽IC付近)
①開通当初
②1～2年経過
③13年経過
④地域性苗木の植栽パック(播磨道(播磨新宮IC～宍粟JCT))

スマートIC

スマートICは、高速道路の本線やSA・PA、バスストップから乗り降りができるように設置されたICです。通行可能な車両を、ETCを搭載した車両に限定しているため、簡易な料金所の設置で済み、従来のICに比べて低コストで導入できるなどのメリットがあります。

スマートICの整備により、市街地や観光地へのアクセスが向上し、高速道路が更に利用しやすくなります。当社では、2004年12月に初めてスマートICが開通し、現在は36カ所のスマートICが開通済みです。また、12カ所で新たなスマートICの建設事業を進めています。



スマートIC設置情報



建設事業中スマートIC 12カ所(名称は仮称を含む)